

タイビルマ国境訪問ツアーに参加して

タイのメソトに 8 月 23 日に入りました。

○メソトの町について

メソトの町は昔から、低所得の方を雇用して 3K の仕事や安い労働力を期待した工場や企業が多くあります。

クーデター前はタイ人とミャンマー人の比率は 1 : 1 でしたが、現在は 1:3~5 と言われています。中でもミャンマー人がメソトに行けば、教育と医療がほぼ無料で受けられると聞いて沢山の親が子供をメソトに送っていました。この頃の子供の数は 9,000 人と言われていましたが、今では 25,000 人を超えています。迎える施設も以前は 14 ヶ所でしたが、600 ヶ所となっています。今年タイ政府は施設を増やすことを禁止しましたが、避難民の数は増え続けています。

今でもクーデターにより避難する人が後をたちません。

◎シャンティ国際ボランティア会事務所訪問 Shanti Volunteer Association (SVA) office

タイ国境の 5 か所の難民キャンプで 15 の図書館を開設している。外国の絵本にビルマ語カレン語の翻訳シールを貼り、各図書館に設置している。移動図書館の活動も行っている。難民から図書館司書を育て、日本の紙芝居や読み聞かせ、手遊び、折り紙なども取り入れている。またビルマ民政移管以降、2014 年 12 月にビルマ国内ヤンゴンとピーでそして、19 年 8 月にパアンで事務所を開設した。タイ国境の難民キャンプを訪問するにはタイ内務省の発行する難民キャンプパスが必要であるが、SVA を通じて手続きをお願いすることができる。



シャンティ国際ボランティア会事務所 多くの翻訳された日本の絵本が並び

支援を広げる手段として

ミャンマー語への翻訳した絵本を作成するために地域のコミュニティでお母さんと子供に参加を呼びかけ、翻訳したシールを張るという作業を行っていただき、最終ページに協力者の署名を貼ることで関心ごとを深め、継続しやすく工夫されています。

◎・Border Line : ボーダー ライン

<http://borderlinecollective.org/>

フェアトレードショップとカフェ、アートギャラリーを併設している。

フェアトレード商品は ビルマの少数民族組織やタイ山地民の民芸品が多く並んでいる。



アートギャラリーに並ぶ作品の数々

カフェではビルマの ラペットゥやビルマケーキ（蒸しケーキ、毎回出来たての熱々）もいただける。

◎ニューブラッドスクール学校訪問 New Blood School

<https://www.newbloodcenter.org/en>

メソトにある移民の子どもたちのための学校。10年生終了後は、ビルマ国内や他国で進学できるようにと GED (General Educational Development : 高校卒業同等と認定するための試験システム) を導入している。現在は特に上級生の教育に力を注いでいる。Zaw Lwin Oo 校長がリーダーシップを取り IDP (国内避難民) 支援活動を続けている。関連記事 : 大切なのは「生徒の幸せ」 受験者全員が「米国 GED 試験」に合格するミャンマー移民学校の「驚くべき教育方針」

<https://courrier.jp/news/archives/326381/>



高校生への紙芝居の読み聞かせお手本



小学生低学年への紙芝居の読み聞かせ

家族で避難して見える場合は通学となりますが、親元を離れている子供は寮生活となります。

寮生は 200 名くらいです。

在校生の数クーデター前は 250~300 名程度が、今は 650 名となっています。

しかし笑顔は素晴らしい子供たちです。

ここの子供たちは勿論、パスポートはなく、不法滞在です。そのために一生懸命勉強をして、GED と

いう海外へ留学できる試験に挑戦します。

この試験に合格すれば、海外で学び、就職も可能なパスポートを手に入れることができます。

GED は、高卒と同等の学力を持つと証明する米国の認定資格だ。試験は英語でおこなわれ、英数理社の 4 教科すべてに合格すると、米国のみならず、その制度を採用している海外の大学の進学資格を得られる。

今回訪問した難民キャンプには NEW BLOOD LEARNING CENTER には 650~700 名の子供達が通学、寮生として生活をしながら学んでいます。

不法滞在の子供たちがタイの大学に入学すること、教師などの安定した職業に就くことは困難です。しかしこの施設の凄いことは昨年高校レベルを卒業した 47 名全員がこの GED 試験に合格したことです。

教育を受けることで、明るい未来を自分の力で作っていくことができます。

ミャンマーの子供達の明るい未来を祈るばかりです。

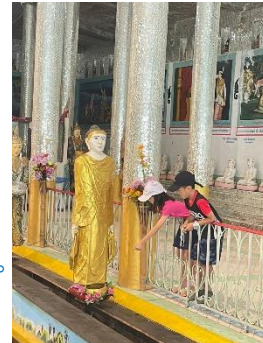
8月24日

タイ・ミャンマー国境にかかる友情橋

国境マーケット

ワットタイワッタナム寺院

電動で動くお釈迦様の足元に
お賽銭入れがあります。



日本製中古品販売所（カジノが見える場所）

ミャンマーのメマリーとタイのメソトにかかる橋（友情橋）の見学をしました。

タイ側は豊富な商品がありますが、橋の向こう側（ミャンマー）と中洲にある建物、人の服装はタイ側には比較になりません。時々、ミャンマーから爆撃の音も聞こえてくるようです。

タイ側の中洲にはミャンマーの人が高見台のような建物を建てて、タイ人にタバコ、お酒、食品などを販売しています。

空中は不法侵入にはならないそうです。

タイの国境には鉄条網がぐるぐると巻いて、張り巡らせてあります。

ミャンマー政府が民主化の時に外貨獲得のために建設したカジノは 10 ヶ所ほどあるそうですが、全てクローズしています。



友情橋とタイビルマ側にある鉄条網



隠し撮りで撮影したミャンマー側のカジノ施設とその周辺

ミャンマーのインフレ率は 200~500 になっているそうです。
給料は変わらないか、仕事が無い状態ですので、かなり生活は厳しいと想像します。

メータオクリニック訪問 Mae Tao Clinic
シンシア マウン院長 (Dr. Cynthia Maung) と懇談

©Mae Tao Clinic とは
メータオ クリニック <http://maetaoclinic.org/>
1989年にシンシア・マウン医師



メータオクリニック前にて

https://en.wikipedia.org/wiki/Cynthia_Maung によって設立された。
2019年6月に30周年の記念式典を行った。設立以来、軍事政権による迫害・弾圧などによってタイに逃れて来たビルマの人びと、貧困により国内では医療を受けられないビルマの人びとに必要な医療を提供し続けてきた。2021年9月以降は戦闘で負傷したPDF(人民防衛隊)や国内避難民も治療している。クリニック ©Copy right: Burmese Relief Center Japan は支援者からの寄付によって運営されており、人びとは無料で医療を受けることができる。日本のNPOメータオクリニック支援の会(JAM)の派遣員として日本人医療者、有高医師が従事している。

ミャンマー、タイの人たちに無償で診療をされています。

ミャンマーの民主化 1988年にバンコクの病院で仕事をされて見えたが、カレン民族の村の医師になろうと民主化を訴えてタイのメソト流れ着くことになります。メソトで 1989年に METAO クリニックを7名の学生達とつくり、診療を開始しました。

A.シンシア院長の夢は

- ①格差社会の無い状態を目指す
- ②全ての人が教育、医療が受けられること
- ③性別、民族などが平等であること

B.クリニックで多い疾患

- ①出産
不法入国者の子供は出産証明が出せない慣例を変更する努力をされた
- ②出産証明書の発行
- ③戦争で怪我をした
- ④栄養状態が悪いために起こる疾患

C.一日の受診数

200~250名

診察時間

8時~16時

緊急は24時間対応

妊婦、子供が多い



シンシア院長と懇談

D.シンシア院長の功績

- ①2002年アジアのノーベル賞と言われる「マグサイサイ賞」を受賞
- ②2003年 TIME 誌の「アジアの英雄」に選ばれます。
- ③長年の社会貢献で 2005年ノーベル平和賞にノミネート
- ④2012年 DEMOCLACY AWARD 受賞

◎Loot Lat Yay Cafe 2 階建ての家屋のカフェ。

店内の壁面にはクーデター後、戦闘が激しい地域の名前がイラストとともに描かれている。支援のためのイベントが随時行われる。

8月25日

23日に訪問した NEW BLOOD LEARNIG CENTER に交流のために再度訪問をしました。

◎Maung Maung Tinn : マウン マウン ティンさん

<https://maungmaungtinnart.com/>

http://www.brcj.org/p/blog-page_25.html



マウン マウン ティンさん

マウンマウンティンさん（1969年生）はビルマ難民で、シャン人の父親とカレン人の母親の間に3人兄弟の末っ子として生まれた。カレン州紛争地から1995年にメソトにたどり着き、メータオクリニック小児科のメディック（看護師）となる。絵の才能が認められ、画家となる。難民キャンプの生活や、避難する人びと、移民学校の子どもたちを描いている。イタリア、カナダなどの国々で展覧会を行っている。2012年来日。東京・横浜・大阪で展覧会を開催。「Born Free and Equal」の挿絵を担当し、現在は移民学校の子どもたちに Universal Declaration of Human Rights の授業を行っている。

NEW BLOOD LEARNIG CENTER でマウンマウンティンさんの平等の授業を高校生達と受けました。世界の中にある不平等には民族、性別、容姿、法律など思った以上にあります。

それらの不平等な行為を受けた時、不平等と訴える勇気、会話、時にはそこから離れる判断が大切なこと、それは抑圧に屈するのではなく、自分に合った人の役に立つ生き方を見つけ、幸せになる為です。

その後は2班に分かれて子供達との交流です。

1班は日本の紙芝居を日本語とビルマ語で読み聞かせを高校生にしました。

これはこれからこの紙芝居を高校生が幼稚園児、小学生に読み聞かせをしていて日本語の勉強に役立てる為です。

その後、小学生低学年にも紙芝居を読み聞かせをしました。

2班は昼食の準備をしました。250食分のカレーライスを作ります。250食は寮生と先生、ボランティアさんの分です。

災害の時の炊き出しのように大きな鍋で薪を使っての炊事です。

いつもは高校生が8名ずつ当番で行っています。



お皿でご飯をよそうダイナミック!!

炊事当番の担当になると授業は受けませんが、助け合いながら、学びと仲間との協力を重ねて、素晴らしい成果も作っています。

美味しいカレーライスが
できました。



寮生は全員が親元を離れざる環境にいます。

国軍に殺された、捕まった、逃げる間にバラバラになってしまったなど、言葉にすることができない経験をしていますが、仲間たちとの協力、メンタルケアの助けを借りて、早く独り立ちができること、学んで海外の大学に留学して、いつかはミャンマーの為に働くリーダーになる夢をそれぞれが描いています。

©Social Action for Children and Women (SAW) 子どもと女性のための社会活動

<http://sawfoundation.org/>

孤児院 メソトで捨てられた子どもや親が亡くなった孤児を保護し、養育する施設。

メータオクリニックと協力関係にある。子どもたちの将来のためにタイ国籍取得をすすめている。

HIV 患者施設 HIV に罹患している子ども 19 人と大人 25 人が生活している施設。自立のための活動として織物や手作りの小物を作成し、販売している。2 日で 1 枚完成する手織りショールは色鮮やかで、見事である。

この SAW はミャンマーからの避難民がメソトで出産した子供、生活が苦しい為に METAO クリニックに置いておかれた子供、障害を持っている子供、エイズに罹った母子などが集まって保護を受けています。

この組織はタイ政府から認められた組織の為、この施設で育った子供はタイの学校、仕事につくことができるカードを取得することができます。

育つ環境は厳しいですが、SAW を出た子供達は自立して、この後働いたお金から SAW に寄付をしています。

どこまでも助け合う気持ち、人の役に立ちたいと言う気持ちが彼女達からの生き方を輝かせています。

8月26日

©AAPP(Assistance Association for Political Prisoners (Burma) : ビルマ政治囚支援組織

<http://aappb.org/>

代表 : Bo Kyi さん

2000 年、政治囚やその家族のために設立された組織。

メソトとビルマ国内ヤンゴンに 事務所と展示室があったが、現在ヤンゴンの事務所は閉鎖されている。リニューアルされた展示室には 88 年の民主化運動の弾圧、90年代の学生運動、2007 年のサフ ラン革命、2021 年クーデターの記録や写真が展示されている。また、ビルマ国内の刑務所独房の再現、インsein刑務所の模型、拷問の図など貴重な資料がある。

施設への入り口が
刑務所と同じ



左から 3 人目が代表 Bo Kyi さん

ミャンマーでは軍事政権が続く歴史があります。

1988 年の民主化から始まり 2021 年のクーデターまでの間でも 1996-98 年、2007 年には沢山の学生運動、僧侶による運動があり、政治囚として逮捕された方々の経験を博物館として展示されています。

今もメソトからミャンマーの同胞からの多くの情報を元に政治囚の現状を国際社会に発信をされています。

◎ Back Pack Health Workers Team (BPHWT) バックパックヘルスワーカーズチーム事務所

<https://backpackteam.org/>

名前の通り、バックパックを背負って医療活動をしている団体である。

医療訓練を受けたメンバーがチームを作り国内避難民地域に入る。

地雷の犠牲者や、感染症、ジャングルでの出産などを数多く手がけ、医療救命活動に貢献している。

ミャンマーの内戦で国軍に追われた人、戦闘で怪我をした人はジャングルに逃げて、生活をされて見えます。

彼らは病気、怪我をなおすことができないため、一般人が治療のトレーニングを受け、医療備品、お薬を持って治療に向く組織です。

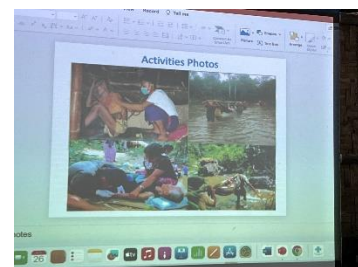
中にはジャングルで出産もあり、大変な活動をされています。

援助団体は WHO、METAO クリニック等です。

一般人が 12 ヶ月のトレーニングにより、

簡単な怪我の手術と治療、出産も行います。

マラリア、テング熱等のよくある疾患への対応を行います。



一般人による医療活動の様子

◎・Ko Min Thant Maung (ミンさん)

ジャーナリスト。

久保田徹さんがヤンゴンで取材中逮捕されたとき同行していた。

その日のうちに着の身着のままタイ、メソトに逃れる。

現在 UNHCR を通じて第三国定住 の措置を待っている。メソトでの在留資格を持たないミャンマー人の姿を語ってくれる。